

# 異境の景観 ブータン王国の姿と変化

福永正明

(日本GNH学会 常任理事・事務局  
長)

# ヒマラヤの小国



# ヒマラヤの小国



# ブータン王国の現状- 1

## 1.面積

約38,394平方キロメートル（九州とほぼ同じ）

## 2.人口

約70.8万人（ブータン政府資料2011年）

## 3.首都

ティンプー（Thimphu）

## 4.民族

チベット系，東ブータン先住民，ネパール系等

## 5.言語

ゾンカ（公用語）等

## 6.宗教

チベット系仏教（カーギュ派のドゥック派）

# ブータン王国の略史

17世紀，この地域に移住したチベットの高僧ガワン・ナムゲルが，各地に割拠する群雄を征服し，ほぼ現在の国土に相当する地域で聖俗界の実権を掌握。

19世紀末に至り東部トンサ郡の豪族ウゲン・ワンチュクが支配的郡長として台頭し，1907年，同ウゲン・ワンチュクがラマ僧や住民に推され初代の世襲藩王に就任，現王国の基礎を確立。

1952年に即位した第3代国王は，農奴解放，教育の普及などの制度改革を行い，近代化政策を開始したが，1964年，地方豪族間の争いに起因する当時の首相暗殺や，その後任命された首相による宮廷革命の企み発覚を契機に，首相職が廃止され，国王親政。

1972年に16歳で即位した第4代国王は，第3代国王が敷いた近代化，民主化路線を継承・発展させ，王政から立憲君主制への移行準備を主導。

2006年12月，第4代国王の退位により，現国王（第5代目）が王位を継承。2007年12月及び2008年の総選挙を経て，2008年4月に民主的に選出されたティンレイ政権が誕生し，5月には国会が召集され，7月に憲法が施行し，王政から議会制民主主義を基本とする立憲君主制に移行した。2008年11月に，現国王の戴冠式が行われた。

# ブータン王国のGNH

- 国家基本方針としての「国民総幸福度」
- すべての政策の前提となる考え方
- その背景には、小国としての独立維持
- 調査と数値による結果から計画へ
- 幸福度調査→国民の現状を尋ねる

# ブータン王国のGNH

- どうしてブータンの人は、幸福といえるのか
- GNHは、「今の自分、社会を考えること」
- 次の自分を考えるための手段
- チベット仏教の教え
  
- 日本も含めて、他の社会でのGNH

# ブータンの文化政策

- 多民族国家である→しかし
- ンガロッパ（チベットから移住してきたチベット系住民）が主体となる
- 教育の機会均等→英語教育と国民教育
- ンガロッパ主体の社会、文化、言語（ゾンカ）
- ンガロッパの民族衣装を国家公式衣装とする





# 景観と伝統建築物

- 伝統建築物を作りづつける
- 伝統建築物の保存ではない
- 各建物が様式美を兼ね備える→景観
  
- シンガロツパ中心の伝統文化復興政策のなか  
建築様式の規定がある  
→ブータン建築の外観が決められている  
伝統的な建築物を踏襲したデザインを  
必ず用いる<コスト高>

# ゾン（政治と宗教の中心拠点）

- 現在もゾンに地方行政事務所が置かれ
- その地方中心の僧院となる
- 交易路の中心地→川沿いの道が交差する中州上、小高い丘
- ゾンは、戦争用の小さな城であった
- ゾンは、心の原風景に組み込まれている建物
- ブータン人の心のよりどころ象徴。

# プナカ・ゾン



# プナカ・ゾン



# プナカ・ゾン



# プナカ・ゾン



# プナカ・ゾン

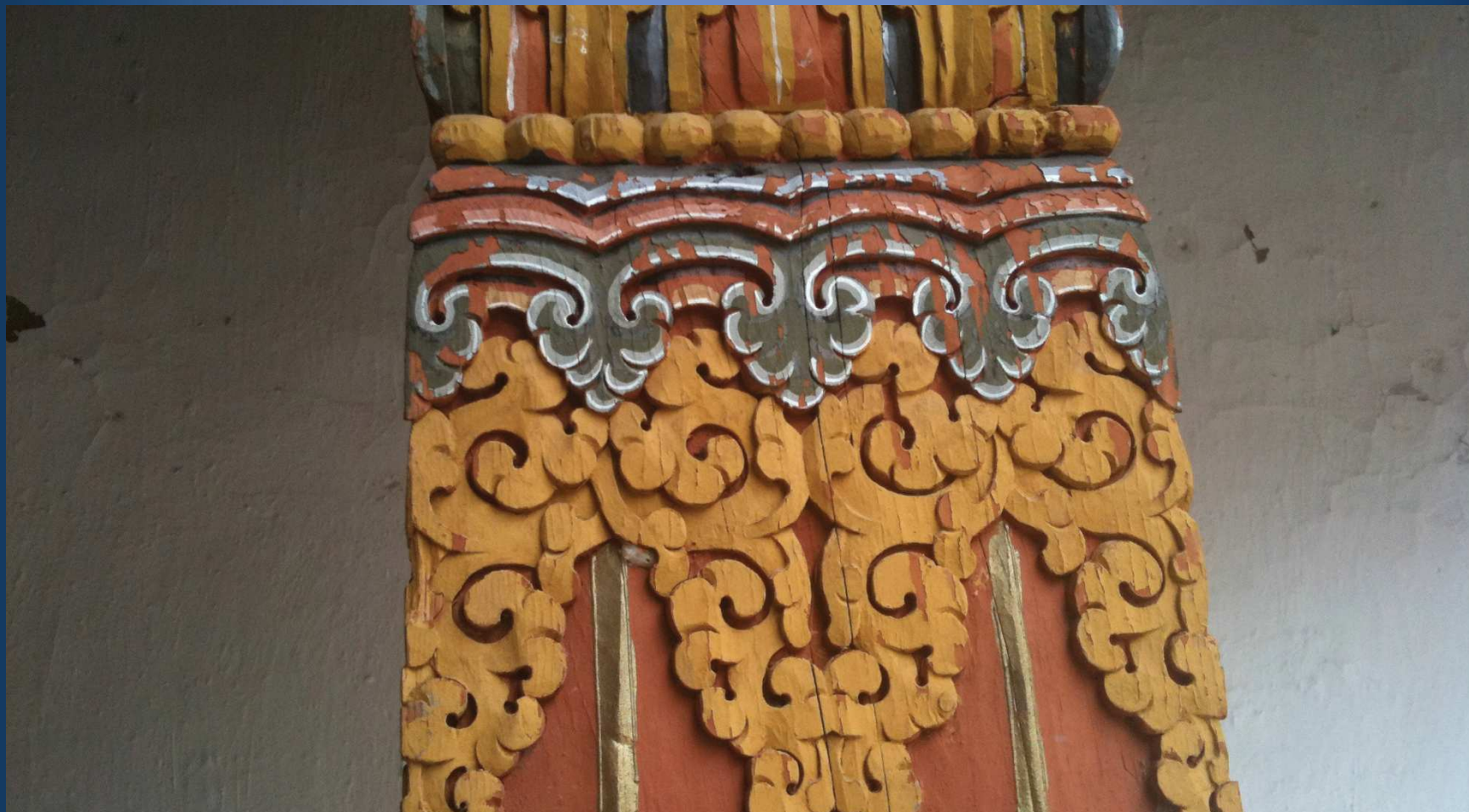




# プナカ・ゾン



# ブナカ・ゾン



# プナカ・ゾン



# プナカ・ゾン



# プナカ・ゾン



# ブナカ・ゾン



# 都市の景観



# 都市の景観







# 都市の景観



# 都市の景観



# 農村の景観



# 農村の景観



# 農村の景観



# 農村の景観



# ありがとうございました

- 「ブータン人の幸福論」  
徳間書店、福永正明編
- 「国民総幸福度（GNH）による新しい世界へ」  
ブータン王国ティンレイ首相講演録  
日本GNH学会編 芙蓉書房出版